

細田有里(ホソダ ユリ)

平成19年度1次隊 理数科教師 南アフリカ共和国

プロフィール

大学時代に短期ボランティアでカンボジアを訪れたことがきっかけで大学院卒業後に参加

南アフリカの気候や文化の紹介

アフリカ最南端に位置する南アフリカには四季があり、日本より少し暑い程度のとても過ごしやすい国である。また、ヨーロッパ調の綺麗な建物と、ナショナルパークなどアフリカのイメージの両方があり、2年間では回りきれないほどの沢山の観光地がある。また、2010年のワールドカップサッカーの開催に向けて、大規模な開発が進行中だ。

しかし南アフリカは、アパルトヘイトの影が濃く、法律上では廃止された今でも、差別が根強く残っているのが現状である。そして、遅々として進まぬ格差環境の改善に国民の不満は増大しており、犯罪リスクも未だに高い。

これらの事情から、ワールドカップの開催の吉凶に、全世界の注目が南アフリカに集まっている。

活動や生活について

私の活動を行なっている学校は、FET という日本の専門学校にあたる教育機関であり、ビジネス学科とエンジニア学科の2つの学科から構成されている。生徒は15歳以上であれば、年齢を問わず入学できる。

南アフリカにおける数学レベルは驚くほど低く、つい最近まで数学が重要視されてきていないという現状に加えて、電卓の普及による計算能力の低下などがこの国の大きな問題である。

私の主な活動は、学生に対して授業を行うことである。しかし、赴任先の生徒の多くは自分と同世代であり、年上の生徒を教えることもまれではない。そのため、赴任当初は語学の問題や年齢が若いなどから生徒に馬鹿にされる事も多く、悩む日々が続いた。けれど、同僚の手助けやアドバイスを受け、自分の目標をしっかりと立てることで、少しずつ生徒も自分を教師として受け入れて始めてくれた。また、語学の問題は最初に英語を使って生徒に説明し、その後生徒間で現地語を使っての説明を促した。このシステムが、理解度の向上に役立ち、活動目標と定めていた最終試験の合格率50%を達成する事ができた。現在では、任期修了までに学生の基礎の増強、反復学習の大切さを学生はもちろん、同僚にも伝えていきたいと考えている。

その他、私は南アフリカに来て、雨女という意味を持つ"ノンブーラ"、"ソゴマネ"というアフリカの苗字を手に入れた。ここ南アフリカではアパルトヘイトが近年まであったことから、民族間および家族間の絆はとても強い。そのため、この苗字のおかげで、多くの家族および兄弟姉妹を、ここ南アフリカで手に入れることができた。また、現地の友人宅を訪問して共に過ごす機会が多い。家族はみな親切で家族の一員として私を暖かく迎え入れてくれる。友人の家を訪問する度に、南アフリカの料理や掃除法、南アフリカでの伝統なども教えてもらっている。日本から遠く離れた南アフリカで、家族の暖かさまた大切さを実感している。



補講授業



授業風景



赴任先の学校



私の家族

(両親が南ア訪問の際にとった南アの家族との写真)